

# 編 集 後 記

■大阪万博以来の国際博覧会として開催されている「愛・地球博」に家族で先日行ってきました。

博覧会の目玉である、冷凍（-15℃）保存されている「シベリアマンモス」を見てきました。見物する時間はわずかでしたが、テレビで見るのとは違い、迫力あふれるものでした。

夏休みに入り、家族や友人等で行かれる方もいらっしゃるかもしれませんが、3つ程気づいた点を申し上げたいと思います。

一つ目は、帽子もしくは日傘の持参です。万博会場内は屋根のある所がほとんどありません。炎天下、会場内を行動することになりますので、是非持っていくべきです。もし、暑さを避けるならば、夕方から入場するのも一つの方法だと思います。若干、昼間より人が少ないようです。

二つ目は、折りたたみ椅子かレジャーシートの持参です。会場内にはベンチがほとんど置かれておりません。また、パピリオンについても立って見学するところが多く、結構疲れます。簡易な椅子があれば、かなり楽だと思います。

三つ目は、水筒の持参です。ペットボトルは持ち込み禁止となっています。（持ち込むと入口でチェックされ、没収されます。）しかし、会場内では自動販売機のある場所が限定されていますので、飲み物を買うのが難しいです。荷物になりますが、あらかじめ持参しておくのが無難です。

今、日本で注目のスポットですので、一度行かれてみてはいかがでしょうか。（T・K）

■6月1日、通勤は「クールビズ」スタイルに変わった。私の中での「クールビズ」は何とも微妙な存在だ。

深刻な地球温暖化など環境問題への配慮からの「クールビズ」は当然奨励すべきことである。しかし、その反面、長袖Yシャツにノーネクタイの姿は、首元にアクセントがなくなると見えて格好がそれほどいいものではない。通勤電車でネクタイをキリッと締めている人を見ると、暑さの問題は別としてお洒落という点で到底対抗できない。

では、どういう通勤スタイルが理想なのかということを考えているうちにある言葉に行き当たった。日本には「四季」がある。気温、湿度も季節や土地によりかなり違いがある。同じ場所、例えば大阪でも同じ6月中に梅雨で肌寒

くなったり、汗ばむほど暑い日もある。それを踏まえて考えると、「クールビズ」と決め付けずに「常識の範囲で、ネクタイ、スーツなどを気候と体調に合わせて着用すること」と定義するのはどうだろうか。自然からの贈り物「四季」を日々感じて楽しむ位の柔軟さと余裕が今の日本の社会には必要なのではなからうか。「たかがクールビズ、されどクールビズ」である。（Y・S）

■『おおさか』の漢字表記が『大坂』から『大阪』になぜ変わったのか。ずっと疑問に思っていたところ、新聞に「『坂』の字は「土」に戻るに通じ、江戸時代から何度も大火に見舞われたこともあって、縁起が悪いとされた。そこで、ござとへんに盛んの意味がある「阪」に変えられた」という記事が載っていました（毎日新聞5月30日朝刊より抜粋）。

真偽のほどは定かではありませんが、「地名」には歴史や願いが詰まっているんですね。合併の過程で大筋について合意しているにもかかわらず、新市町村名を何にするかでこじれてしまったというニュースを聞くにつけ不思議に思っていました。少し納得しました。（Y・N）



編集庶務は大阪府総務部市町村課  
総務・企画グループで行っています。

〒540-8570  
〔府庁の専用郵便番号ですので、住所の記載が省略できます。〕

☎ 06-6941-0351 (内線2228)  
06-6944-6096 (市町村課直通)

## サマージャンボ宝くじ 発売中!

1等	2億円	×42本
1等前後賞	5千万円	×84本
2等	1億円	×42本

(発売額1,260億円 42ユニットの場合)

発売額：300円/枚  
発売期間：7月15日（金）～8月2日（火）  
抽選日：8月12日（金）



サマージャンボ宝くじの収益金は、市町村の明るく住み良いまちづくりに使われます。大阪府内の宝くじ売場でお買い求めください。